

平成27年5月15日
独立行政法人 家畜改良センター茨城牧場長野支場

緑肥用ライ麦のすき込みを行います。

長野支場では、我が国の気候条件に適した国内で育成された牧草の品種の種子を増殖しています。

種子の生産量を上げるためには畑の肥沃度を上げる必要がありますが、当场では化学肥料の利用を抑え、有機質肥料の代わりとしてライ麦やそばを「緑肥」として作付けし、畑にすき込む方法を採用しています。これにより、乾燥時に発生する砂埃を緩和させることも出来ています。

なお、当场では平成26年からライ麦種子の売り払いを行っており、地元のパン屋での利用等、佐久の新たな名産品としての期待が高まっているところですが、これはこの緑肥としての利用のために収穫された種子の余剰分を払い出したものです。

畑へのすき込みは、ライ麦が大きくなる出穂時期（5月中旬頃）に行います。取材のご希望がありましたら、【お問い合わせ先】まで、お気軽にご連絡下さい。

記

日時：平成27年5月18～29日頃

場所：家畜改良センター 茨城牧場長野支場 採種ほ場

内容：緑肥ライ麦のすき込み作業

※ 作業の日程は天候などに左右されますので、取材を希望される方には、日時が決まり次第、ご連絡致します。



緑肥用ライ麦



すき込みに用いる農機具

(プラウ)

畑の土の天地返しをします。

【お問い合わせ先】

長野県佐久市新子田2029-1

独立行政法人

家畜改良センター茨城牧場長野支場

担当者：種苗業務課

(土方ひじかた 川口)

電話番号：0267-67-2501

F A X：0267-68-4743

U R L：

<http://www.nlbc.go.jp/nagano/>

「日本の畜産 改良と技術で守ります」

(参考)

1 ライ麦の作付け概要

- (1) 品種：ペトクーザ（食用品種）
- (2) 作付け面積：緑肥用 6.3ヘクタール
緑肥用（種子も収穫） 2.2ヘクタール
- (3) 種子収穫予定量：約3トン（収穫は7月中旬頃を予定）

2 牧草種子の増殖体系について

当場で生産及び検査証明を終えた「もと種子」は、世界的に有名な牧草の採種国であるアメリカ、カナダなどへ輸出され、さらに増殖後、日本に再輸入されます。その後、種苗業者を通じて畜産農家に販売され、乳牛や肉牛などに給与される粗飼料生産に利用されています。

牧草の多くは、コメ、小麦などの自殖性作物とは異なり他殖性作物であるため、他品種と容易に交雑し品種の持つ優れた特性が失われる恐れがあります。このため当場では、OECD（経済協力開発機構）の定める牧草種子品種証明制度、およびISTA（国際種子検査協会）の定める国際種子検査規程に基づいた検査（ほ場・種子、植物体の検査）を実施しており、作付け後の畑の栽培禁止期間等のほ場管理や種子の純度など、厳しい国際基準をクリアした、高品質なもと種子の増殖を行っています。

